

(6) ファカルティ・ディベロップメント委員会**① 設置の趣旨（目的）及び組織****ア 組織設置の趣旨（目的）**

ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）委員会は、上越教育大学における教育活動の質的向上と発展を期して、FD活動を実施することを目的としている。

イ 組織の構成及び構成員等

FD委員会は、①FD担当の副学長、②各専攻・コースから選出された教授又は准教授（講師及び助教を含む。）、③その他学長が指名した者の計12人で構成されている。

② 運営・活動の状況**ア 委員会等の開催状況**

平成30年度においては、以下のとおりFD委員会を4回開催した。

- ・ 第1回 平成30年5月8日（火）
- ・ 第2回 平成30年6月19日（火）
- ・ 第3回 平成30年11月19日（月）
- ・ 第4回 平成31年3月20日（水）

また、平成30年度FD研修会及びFD講演会の内容を検討するため、平成30年10月23日（火）にFD研修会・講演会検討WGを開催した。

イ 審議された主な事項

- i) 平成30年度FD活動計画
- ii) 平成30年度年度計画に係る実施計画の作成
- iii) 平成30年度授業公開の実施
- iv) 平成30年度学生による授業評価の実施
- v) 平成29年度学生による授業評価報告書の作成
- vi) 平成30年度前・後期「学生による授業評価アンケート」の集計結果に基づく自己評価レポートの作成
- vii) 平成30年度FD研修会及びFD講演会の実施
- viii) 平成30年度機能強化経費による調査研究

ウ 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等**i) 平成30年度FD研修会及びFD講演会の実施**

FD研修会及びFD講演会については、FD活動の一環として、ここ数年では、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れることにより、学校現場でアクティブ・ラーニングを実践できる教員を養成することを目的として開催している。平成30年度は、学生の学修やアクティブ・ラーニングを促進するためのティーチング・アシスタントやピアチューターの役割をテーマとして、平成31年2月20日（水）に、金沢大学国際基幹教育院高等教育開発・支援系の河内真美特任助教を講師として平成30年度FD研修会及びFD講演会を開催した。

研修会では、「アクティブ・ラーニング型授業におけるピアチューターの役割とスキル」をテーマとして、学生の学修やアクティブ・ラーニングを促進するためにティーチング・アシスタントに

求められるスキルや心構えについて講演があった後、講演内容を踏まえたグループワークと講師からの助言等の流れで進められた。

研修会には、アクティブ・ラーニングの積極的な導入に取り組む教職員等23人、ティーチング・アシスタントを中心とする学生18人が出席した。

引き続き、講演会では、「学生の学びを深める学修ピアチューター－金沢大学アクティブ・ラーニング・アドバイザー（ALA）の事例－」と題して、大講義室にもかかわらず、グループワークも取り入れながら、アクティブ・ラーニングにおいて学生が学生の学修を支援するための取り組みとして金沢大学におけるALA制度が紹介された。

講演会には、教職員及び学生約120人が出席した。

ii) 学生による授業評価に係るシステムの導入

本年度の授業評価の実施に当たっては、平成28年度に「機能強化促進経費」として予算措置されたことにより構築したWeb入力による授業評価アンケートシステムを導入し、授業評価の基本的な流れを変更せずに業務を効率化できるよう図った。

③ 優れた点及び今後の検討課題等

ア 優れた点

- i) 平成30年度FD研修会の参加者からは、「ティーチング・アシスタントを活用する機会はなかったが、アクティブ・ラーニングを行う上で活用できる方法を知ることができた。」(教員)や「ティーチング・アシスタントに関わらず、教員になってからも必要なスキルであり、忘れがちなところを再確認できる良いものだった。」(学生)等の感想が寄せられた。
- ii) 平成30年度FD講演会に参加した教員からは、「ティーチング・アシスタントの導入背景や理念・制度について知ることができた。」や「金沢大学の取組は本学のティーチング・アシスタント制度を改めて整える上で、非常に参考になると思った。」等の感想が寄せられた。
- iii) 前年度よりWeb入力による授業評価アンケートシステムを実施し、引き続き、授業評価アンケートの効率的な実施及びコストの削減に寄与した。
- iv) 今後のファカルティ・ディベロップメント活動の改善に資する上で、アクティブ・ラーニングのあり方及び研修会・講演会のテーマを探るため、機能強化経費(戦略1-3)によりファカルティ・ディベロップメント活動またはアクティブ・ラーニングに先導的な大学等を訪問し、平成30年12月～平成31年3月の間に調査研究を行った。

イ 今後の検討課題

- i) 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う資質能力の向上について(平成27年12月21日)」の中で指摘されている「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善等に対応した教員養成への転換」の実現に向けた取組の継続
- ii) Web入力による授業評価アンケートシステムに係る回収率の向上及びシステムの充実
- iii) 授業公開における参観者数の向上
- iv) 平成31年度大学改革に伴う「教職大学院フォローアップセミナー」のあり方